



1. 赤松音呂《チジキンクツ》2013年、作家蔵、©赤松音呂
展示風景：「CyberArts 2015」OK Center for Contemporary Art [リンツ、オーストリア]、2015

インタラククション：響きあうところ

会場	展示室1・2（富山市ガラス美術館2階）
会期	2020年12月12日（土）～2021年3月14日（日）
開館時間	午前9時30分～午後6時 ※入場は閉場の30分前まで （金・土曜日は午後8時まで。12月29日～1月3日は午後5時まで） ※初日のみ開会式（午前10時30分より）終了後開場
閉場日	第1、第3水曜日、12月31日
観覧料	一般700円（500円） 大学生500円（400円） *（ ）内は20名以上の団体 *高校生以下は無料 *本展観覧券で常設展も観覧可
出品作家	赤松 音呂（あかまつ ねろ）、磯谷 博史（いそや ひろふみ）、佐々木 類（ささき るい）
出品点数	約10点
主催	富山市ガラス美術館
後援	北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、チューリップテレビ、 富山テレビ放送

展覧会概要

偶然に出会う光景から感じた音や光、時間の流れによって、自身の感覚や記憶が呼び覚まされることがあります。そのような体験により、私たちと目の前の光景との間には私的なつながりが生まれます。本展では「対話」を意味する「インタラクション」をテーマに、見る者の感覚や記憶に作用し、作品との積極的な関わりを促す3名の作家を紹介します。

赤松音呂、磯谷博史、佐々木類は、身近な事象を手がかりに、作品を制作しています。地磁気（ちじき）を表現に取り入れた赤松の《チジキンクツ》。蜂蜜にまつわる多様な時間や記憶を照らし出す磯谷の《花と蜂、透過する履歴》。富山の曇りがちな空や雨から着想を得た、佐々木の《Liquid Sunshine / そらにみつろうか》など、本展の出品作品には、世界と自身のつながりを感じとる作家の気づきが重なり合っています。作品を介してこころが触れ合うことで、私たちは身近なものとのつながりに気づき、新たな視点で世界を捉え始めるでしょう。

広報用画像の貸出しについて

1 ページから 6 ページの画像 1~6 を広報用に貸出しいたします。

ご希望の方は、7 ページの画像貸し出し申請書の使用条件をご確認いただき、Eメールか FAX にて富山市ガラス美術館広報担当へ申請書をお送りください。

E-mail : bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp FAX : 076-461-3310

関連プログラム

■ 出品作家によるアーティストトーク

出品作家3名によるスライドを用いたトークイベントです。（各作家20分程度）

12月12日（土）午前11時30分より

[会場] 富山市ガラス美術館2階 ロビー

[参加作家] 赤松音呂、磯谷博史、佐々木類

※事前申込は不要です。直接会場にお越しください。

※参加無料。

■ 見どころトーク

展覧会担当学芸員がスライドで本展の見どころをわかりやすく解説します。

12月19日（土）、27日（日）、1月9日（土）、24日（日）、

2月6日（土）、21日（日） 各回午後2時より

[会場] 富山市ガラス美術館2階 会議室1・2

[定員] 各回先着17名程度

※事前申込は不要です。直接会場にお越しください。

※参加無料。ただし参加には本展の観覧券が必要です。

■ イブニングトーク

見どころトークを夜間開館中に開催するものです。

3月12日（金）午後6時より

[会場] 富山市ガラス美術館2階 会議室1・2

[定員] 先着17名程度

※事前申込は不要です。直接会場にお越しください。

※参加無料。ただし参加には本展の観覧券が必要です。

関連プログラムは都合により中止、または変更となる場合があります。

最新の情報は当館ウェブサイトをご確認ください。

作家紹介

赤松 音呂 (あかまつ ねろ)

東京都生まれ。武蔵野美術大学彫刻学科卒業、東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。現在、神奈川県で制作活動を行う。



2. 赤松音呂《チジキンクツ》2013年、作家蔵、©赤松音呂
展示風景：「CyberArts 2015」OK Center for Contemporary Art [リンツ、オーストリア]、2015年

3. 赤松音呂《チョウズマキ》2020年、作家蔵、
©赤松音呂



磯谷 博史 (いそや ひろふみ)

東京都生まれ。東京藝術大学建築科卒業、同大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ アソシエートリサーチプログラム修了。現在、東京都在住。



4. 磯谷博史 展示風景：「六本木クロッシング 2019 展：つないでみる」森美術館 [東京]、2019 年



5. 磯谷博史《12 hours》2005 年、
作家蔵、撮影：新津保建秀

佐々木 類 (ささき るい)

高知県生まれ。武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科ガラス専攻卒業、アメリカのロードアイランド・スクール・オブ・デザインガラス科修了。現在、石川県在住。



6. 佐々木類《Liquid Sunshine / I am a Pluviophile》2019年、コーニングガラス美術館蔵
Corning Museum of Glass (2018.6.2), 33rd Rakow Commission, funded by the Juliette K. and Leonard S.
Rakow Endowment Fund

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者： _____
Tel： _____ Fax： _____
E-mail： _____
住所： _____
団体名： _____

富山市ガラス美術館 画像貸し出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展

「インタラクション：響きあうところ」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名： _____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨

別紙のとおり（媒体資料を添付してください） _____

4. 掲載（放映）日時： _____

5. ご希望の画像番号： _____

○作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。キャプション等の文字が写真にかぶらないようご配慮をお願いします。

また、縦横比の変更やトリミングはご遠慮ください。

○作品掲出には指定するキャプションを必ず入れてください。

○作品画像の2次使用はご遠慮ください。

※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。また、画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。

○商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。

○校正グラの段階で情報の確認をさせていただきます。

○記事が掲載された場合はDVD、掲載紙、誌を一部ご寄贈いただきますようお願いします。

申請書送付先：富山市ガラス美術館広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax：076-461-3310